

# 第8回 被災地に学ぶ会

「被災地という場をお借りして

人としての生き方を学ぶ会」

## 活動報告



石巻市 前網浜（牡鹿半島）

2012.1.20－1.22

## 【第8回 被災地に学ぶ会 行程表】

(ルート) 名神→新名神→東名→伊勢湾岸→東名→首都高速→東北道

→仙台南部道路→仙台東部道路→三陸道 (合計約1000km)

|          |        |                              |    |     |    |  |  |
|----------|--------|------------------------------|----|-----|----|--|--|
| 1月20日(金) | 18:30  | JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付           |    |     |    |  |  |
|          | 19:00  | バス出発 → 自己紹介                  |    |     |    |  |  |
|          | 20:30頃 | 土山SAにて休憩 →※愛知で事故渋滞に巻き込まれ大幅ロス |    |     |    |  |  |
| 21日(土)   | 6:00頃  | 高速道路SAにて、洗面等の時間。             |    |     |    |  |  |
|          | 8:00   | 石巻市内のコンビニへ立ち寄る               |    |     |    |  |  |
|          | 8:30   | 門脇小学校前を通過                    |    |     |    |  |  |
|          | 10:00  | 牡鹿ボランティアセンター到着 →現場へ移動        |    |     |    |  |  |
|          | 10:30  | 前網浜へ到着→活動開始                  |    |     |    |  |  |
|          | 15:00  | 牡鹿での活動終了                     |    |     |    |  |  |
|          | 15:30  | 仮設商店街散策→経済復興支援に協力            |    |     |    |  |  |
|          | 16:30  | バス出発                         |    |     |    |  |  |
|          | 18:30  | 大川小学校到着→ご冥福をお祈りする            |    |     |    |  |  |
|          | 18:40  | 出発                           |    |     |    |  |  |
|          | 19:00  | 道の駅(上品の湯)入浴+夕食               |    |     |    |  |  |
|          | 21:45  | バス出発(帰路)→体験発表                |    |     |    |  |  |
|          |        | ※福島県郡山ICから白川ICまで積雪通行止の為大幅にロス |    |     |    |  |  |
| 22日(日)   | 11:00  | JR尼崎到着 解散                    |    |     |    |  |  |
| 参加人数     | 44     | 教師                           | 15 | 10代 | 12 |  |  |
| 女性       | 7      | 一般                           | 4  | 20代 | 18 |  |  |
| 男性       | 37     | 中学生                          | 1  | 30代 | 5  |  |  |
|          |        | 高校生                          | 2  | 40代 | 4  |  |  |
|          |        | 大学生                          | 22 | 50代 | 5  |  |  |

第八回「被災地に学ぶ会」体験記

★★大阪府10代 女性★★

私は、今回被災地に学ぶ会に二回目で行かせていただきました。

前回、行かせていただいた時は鹿妻小学校という避難所になっていた小学校で作業させていたんですが、今回は初めて牡鹿という所に行つたんですけど、牡鹿の移動中のバスの中で外の景色を見ていた時にたくさんのお家や学校、そして山では木がなくなったり、崩れたりしているのを見ました。その光景を見て私はとても恐くなりました。お家や学校を見た時は泣きそうになりました。よく考えてみたら、私が家で家族といれたり、学校で友達と話したり勉強できたりしているのは、決して当たり前なんかではなくて、幸せなことなんだなあと思いました。

牡鹿に着いて作業をすることになったんですけど作業内容は瓦礫拾いでした。作業をする前に大谷先生に「丁寧に拾いましょう」と言われたので意識して拾いました。

私はガラスを拾っていたんですけど拾っているいろいろな感情が出てきました。もう更地になつてしまつているところなんですけど、そこに住んでいた人が生活しているのが目に浮かびました。浮かべながら拾っていると一枚のお皿が目に

入りました。そのお皿は割れていないそのままの形のお皿でした。そのお皿を見ていると非常に自分が情けなくなりました。私は日常生活で「たかがお皿なんて」とか、割つたりしても「まだあるし」とか思つてしまつていたので、そのお皿を見て「一枚一枚のお皿には一日一日の思い出などがあるんだなあ」と、そして「何でも大切にしないとあかんなあ」と思いました。

そして一日の作業が終わりました。次は大川小学校に向かいました。大川小学校では、74名もの生徒さんが亡くなられていると聞いたのでとても何も言えなくなり、そして自分を見つめ直させられました。自分はとても自己中人間で、思いやりや、学校での態度などが良いとは言えないので変わろう。そして人のことを思いやれる優しい人になろうと思いました。

帰りに他の方々の体験談を聞かせていただきました。被災地でも学ばせていただいたのに、他の方々からも学ばせていただきました。今回の体験を先生方、そして友達などに伝えていけたらいいな。と思つています。本当に今回いろいろ迷惑をかけましたけど支えて下さりありがとうございます。

★★兵庫県20代 女性★★

第八回被災地に学ぶ会に参加させていただきました。ありがとうございます。被災地に行かせていただくための準備を、すべて見えないところでしていただき、私はただ身体一つで行かせていただいただけです。日本を美しくする会の皆様、バスの運転手様、すべて段取りをしてくださった大谷先生に、心から感謝申し上げます。

今回は、牡鹿町の前網浜で、既に被災された家の撤去が済んだ土地をお掃除させていただきました。その土地には、無数にある大小の石、瓦やガラスの破片、そして生活の跡が感じられるような様々なものが混ざつており、それらを分別しながら行いました。見る限り、一面にそれらが広がっていましたので、どのように手をつければいいのか、始めは立往生してしまいました。大谷先生のアドバイスのもと、まずは大きい物から拾っていきますと、徐々に片付いていくことが分かり、少し小さい物、より小さい物…と次第に見えるようになりました。

その土地をきれいにするので、そこに家が建つか、何か植物を植えるのか、どのように使われるかは知りませんが、ここで新しい明るい生活がまた始まるように…との想いでお掃除をさせていただきました。

前回、十二月に被災地に行かせていただいでか

ら、離れて暮らしている実家の両親と、よく電話で話をするようになりました。被災地から、両親、家族、故郷の大切さを教えていただきました。生まれ育った故郷は、時間を経ても、自分にとってはずっと故郷のままだということ、そして、どれだけ自分は親不孝をしてきたかということに、気づかせていただきました。これからは、少しでも両親に喜んでいただけるような生き方がしたい、と心から思うようになりました。

命の原点に戻りますと、両親がいて、先祖様がいて、自然があるのだと思います。そのように考えますと、日本全体が故郷であり、日本人はみんな家族のようなものだと思います。なかでも、限りある人生のなかで、お会いすることができた方々のご縁は、有難いものだと感じました。山口から来られた山根さんの「一期一会」というお言葉が胸に響きました。

「丁寧に生きる」ということが、両親に対する一番の感謝だと思います。私にとって、一緒に喜んでいたり、感動したりする相手がいるということが、幸せに欠かせません。大切だと思う人がいてくださるから、失敗しても、またがんばろうという前向きな気持ちになることができます。

私にとってなにが幸せかを考えました。自分の欲が満たされることが幸せなのか。やりたいことをやるのが幸せなのか。お金があることが幸せ

なのか…。両親が元気でいてくれること、生きていること、大切な人と会えること、それが幸せに感じます。その大切な方たちが幸せであれば、もっと幸せです。

先祖様だけでなく、大川小学校の子どもたちや先生方、被災された方々、みんないつも天から見ている、と感じました。この方たちを裏切らない、恥ずかしくない生き方をすることを、心に誓います。

人の役に立つ人間を目指しながら、森信三先生の「わが身に降りかかる事柄は、すべてこれを天の命として慎んでお受けをする」という言葉を胸に留め、日々そのような姿勢で目の前のことに取り組むよう、心して参ります。

★大阪府30代 男性★

今回、第八回被災地に学ぶ会に参加させて頂き本当にどうもありがとうございました。今回も加された皆様、被災地の方々、被災地等から多くのことを学ばせて頂きました。私がこのように学ぶ会に参加させて頂けるのも多くの方々のお力があったことであり、その原点を忘れずに、今回の学びを今回だけで終わらすことのないよう、日々の実践にいかしていきたいと思っております。

今回は前網浜にて三班に分かれ家などが撤去された跡地に残っているガラス片やコンクリート片などを回収させて頂きました。ここでは今回参加させて頂き、特に感じたことや印象に残った点等について記載させて頂きます。

【原点を忘れない】

今回、行きのバスの中で大谷先生が「相手のしてほしいと思うことを喜んでさせて頂きましょう、自分のやりたいことを優先して、こんなことをして意味があるんですかと言った方もいました」といったことを話して下さいました。私は以前に企業である仕事をしていたときにこんなことをして意味があるのかと思いつながら働いていたことがあり、はっとさせられました。仕事が存在するの、相手は見えにくくなりますが世の中からは必要とされているから存在するのだと思いません。にも関わらず自分の思いを優先して、たとえそれが小さい仕事であっても世の中に必要とされているからその仕事が存在しているという原点を忘れていたことに気づくことができました。

また参加者のお話を聴かせて頂き、また被災地に身を置かせて頂くことで、自分の原点である故郷や家族を本当に大切にしていきたいと思えました。故郷や家族があつて自分がいるということが実感を持つて感じることができました。

また今回も大川小学校に寄らせて頂きました。大川小学校を前にと学校があり生徒たちが毎日学校にくることがどんなに有難いことなのかということを実感を持って感じました。普段通りの日常を過ごせることに感謝して生徒たち我真剣に向き合いたいと強く思いました。

帰りのバスの中で大谷先生が「100km走った人は自分が走った気になってるが、本当は走らせてもらっている。被災地に行つて学んだ気になつていては『おめでたい』、行けば行くほど迷惑をかけている、そこをわかつていないと『おめでたい人』』というようなことを話して下さいました。いろいろな方の思いやご支援があつて被災地に行かせて頂いているという原点を忘れてはいけないと強く思いました。

#### 【続けることで基準や軸が出来る】

被災地に行かせて頂くようになってから毎朝グラウンドを走るようになりました。ただのランニングですが毎日同じ時間に走ることで自分の中に基準ができてきたように感じています。続けるからこそ今日と昨日の体調の変化や気温の変化、生徒たちがくる時間の変化といったいろいろな変化を感じられるようになってきました。それと同じように被災地に何度も行かせて頂くことで被災地の変化やまた参加されている方々・被災地の方々から人としての生き方の基準が自分の中

に形成されているように感じています。

#### 【小さいことを積み重ねて大きなことに】

今回で被災地に学ぶ会に6回目の参加となりました。被災地に学ぶ会に参加する前の自分は何か大きなことをするために大きなことをしないといけないと思つていましたが、何回も参加させて頂く中で小さいことを積み重ねてそれが大きくなるのだということがよく分かりました。一回にできることはわずかですが今回バスで前網浜に向かう途中で以前に活動させて頂いた場所をいくつか通りました。そのときに一回にできることはわずかでもそれがあわさるとなかなか大きくなるなあと感じました。小さいことをバカにしてそれを雑にしてしまうと結局雑なものまできあがり、丁寧にすることでそれが合わかり大きなものになるのだなあと感じました。自分が変わることも人生を生きることも小さいことを丁寧になくさん積み重ねて大きなものにしていくのだなあと思いました。

#### 【生きる姿勢の大切さ】

今回も道の駅に浅野さんが来て下さいました。大谷先生が無理はしないで下さいねと言われるとこんな時ぐらい無理をさせて下さいと言われる来られたそうです。このお話にも浅野さんの生き方が現れていると感じました。こんな時だから頑張る人とこんな時だから無理をしないという人

がいますと思います。浅野さんは常にそういう姿勢であるからこそ避難所でリーダーをされたのだと思いました。私も普段からそういう姿勢でいたと思いましたが、日々の何気ない日常にそういう姿勢が現れているのだと思いました。

また、浅野さんの娘さんは中学校受験に合格され、また、夏休みの作文で「ボランティアの方々」と出会つて」という題で書かれたものが賞を取られ、自由研究では被災されてからのトイレの変化についてまとめられ、それが大阪の妻鹿小学校にきているという話もお聴きました。この話を浅野さんからお聴きした時に本当にすごいなあと思いました。大変な環境にあつても頑張ることができるし、大変であつたこともそれだけに終わらずにそこから何かを引き出すこともできるのだなあと思いましたし、そういう姿勢が本当にすごいと感じました。

#### 【皆様の言葉(行きのバスにて)】

▼「どんだけ甘えているか」▼「厳しい中に身を置いて肌で感じる」▼「瓦礫を我と曆と書いて我曆」▼「バスから見た向日葵の花がきっかけに」▼「一歩強く出られるようになり、一歩強く受け止められるようになった」▼「本当に本気であれば忘れない」▼「大切なものを大切に」▼「振り返ったときに楽な道を歩んだことがないと自分も言いたい」▼「心を寄せて思いを届ける」▼「ど

んだだけやるかよりも思いを届ける」

【体験報告から】

▼「帰ってからが大切」▼「いつ何が起きるかわからない、一分一秒を大切にしたい」▼「地元の人の衝撃はもつとすごい」▼「何気なく生きているが、本当は生かされている」▼「あら汁がおいしかったのはつくって下さった方の思いを感じたから」▼「年齢は関係ない」▼「同じ石を拾うにもこんなにも違う、打ち込む姿勢が違う、石を拾う小さなこともできないようでは、同じことをしていても気付けない」▼「人の命は儚くて尊い」▼「見つけようとして見つかるもの」▼「チャンス、チャレンジ、チェンジ」▼「全てが学び」▼「現地に行ってみて感じる」▼「みんなでやる」▼「頑張っている人は寒かろうが暑かろうが頑張っている」▼「自分でちゃんと仕事をもらいにいく」▼「河内長野に津波はきますか」▼「一言一言を自分に返して聴いていた」▼「めんどくさいと思う心乗り越えて行動することが丁寧に生きること」▼「見えない部分を見えるように」▼「掃除のテクニクを学ぶだけならただの掃除屋」▼「人の気持ちを大切にしたい」▼「思いを行動に」▼「手にした力を人のために」▼「見えない部分、根っこの部分を大切に」

今回も本当に多くのことを被災地や皆様方から学ばせて頂きました。多くの人の支えによって

自分が生かされていることを忘れず、学んだことを何かの形で返していきたいと思っております。今回も本当に貴重な経験をさせて頂き、本当にどうもありがとうございました。

★★大阪府50代 男性★★

この度は、日本を美しくする会の御厚意、並びに被災地に学ぶ会の世話人の皆様や神姫バスのドライバーの方々の尽力により宮城県の石巻市、牡鹿半島のボランティア活動に親娘で参加させていただけました。ありがとうございました。

親娘で参加させていただくのは二回目になります。一回目はまだ残暑が厳しい九月でした。今回は条件の厳しい冬の被災地を実感したいという想いで参加を希望しましたが、お陰様で念願が叶いました。現地状況や厳しい冬をどう過ごされているのかを、自分の眼で確かめ、身体で感じる事ができました。ボランティアセンターで長期間過ごししている若者、仮説の商店街で商いを再開された人々には「今」を大切にしている姿勢、生き方が強く感じられました。そこには「目先の損得」など存在しないように思います。

自分はこれまで高校の教員として、また高校の野球部の監督として、目標をたてて、その目標に向かつて頑張つて達成する、達成させることを強

く生徒や選手たちに「良かれ」と思い求めてきました。しかしながら、昨年一年間で本当の意味で「今」を大切にするというこの意味が少しわかってきたように思います。目標をたてて頑張ることとは悪いことだとは思いませんが、目標達成を強調し過ぎると、目標達成のためには「ガンバル」けれど、それ以外のことは「やらない」という目先の損得にとらわれてしまうことがあると気付かされました。学校も社会も相対評価の傾向が強くなつており、気がつかないうちに「目先の損得」にとらわれてしまうことになっていくのではないかと危惧しています。「今を生きる」ということは以前からも大切なことと先人達から云われてきましたが、やつとその意味が理解できるようになつてきたと感じています。当たり前のことが、当たり前ではなくなつてから気付くのではなく、現在の恵まれた環境の中でこそ今を生きていけたらと願っております。

他にも実際に現地に赴くことで認識できたことが多くあります。それは現実と事実です。瓦礫の山はより高くなり、道路は整備されてはいるものの放置されたままの家屋もまだまだ多く、復興途上であることや、それとは反対にパチンコ店が新築されて流行っていることには、仕事がなく失業者が多いということは知っていたものの少々衝撃を受けました。これも現実だと…

被災地の報道は日々薄れ、福島県原発に関してもマスコミから報道される内容はもう全てを事実として受け入れることはできません。八月初旬に初めて石巻市を訪れた時にお世話になった

「ボランティアセンター絆」の依頼で、翌日会津坂下の金山町で只見川の氾濫による災害ボランティアのお手伝いに行きましたが、その時も新潟の洪水は大きく報道されましたが、金山町の被害はほとんど報道されませんでした。金山町の被災者の方々は、以前にはこのようなことはなく、今回の川の氾濫はダムの放流による「人災」であると語っていました。被害の状況は床上浸水、増水により鉄橋が流され、線路はちぎれ、変電所は泥砂に埋まり、道路も数カ所でがけ崩れで寸断されているような状況でした。放流したダムは、東京電力、東北電力所有のダムが夏の電力需要に対応するために溜めていた水を大雨のために一気に放流したことが原因だったようです。ということは、福島原発の影響がここにも表れているということになります。このように現在のマスコミは事実、真実を伝えることはもうないと感じています。これからは自分で関心を広く持つて自ら情報を収集し、それを識別できる見識も磨く必要がありそうですし、今回のように自分自身の眼で見て、肌で感じることでより大切になってくると思います。

今回初めて参加された学生さんのように行きと帰りでは発する言葉が別人のように素晴らしき力を持った言葉になっていったように、教員という仕事をしている以上、言葉で伝えることが多いので「百聞は一見に如かず」「百見は一触に如かず」のように現場主義であつてこそはじめて活きた言葉が発せられるのだと存じます。自分自身は三回目の経験ですが、やっぱり早く「心が折れる」自分とも向き合えましたし、まだまだ自分周りの環境や人々に活かされていることもわかりました。自分はそんな有様ですが、人はそれぞれ役割があり、「伝える」という大切な役割もあると思いますので、想いを共有できる仲間を増やすことが自分の役割の一つでもあると思っています。

帰阪して二日目ですが自分はまだ元の日常生活に当たり前のように過ごしています。少しでも当たり前が本当は当たり前ではなく、「有ることが難しい」んだという想いを持って生きて行くことが、今回の参加に対して報いることであると思つています。被災地で「文句も云わず」「依存することもなく」、現状に向き合いながら生きておられる方々に対して敬意を払い、亡くなられた人々の御冥福を祈りたいと存じます。

最後のなりますが、「日本を美しくする会」、「日本を美しくする会」に義援金を送って下さつ

た方々、現地までまともな休憩なしで我々を運んで下さった神姫バスのスタッフの皆様方、今回バスで御一緒させていただいた方々に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

★★大阪府50代 男性★★

「共に感じ・共に学び・共に成長」、まさに被災地に学ぶ会は、普段は忘れかけている素直になれる自分と向き合える場であるとも感じます。一人ひとりの想いを感じ、お互いに共有できる空間は普段はなかなか簡単に味わうことはできません。そんな中、私自身の前回のテーマは「足元を見つめ直す」でした。そして今回のテーマを「一歩踏み出す」にしました。見つめ直すだけで終るのではなく、そこから更に一歩踏み出す勇氣・覚悟・決断というものが被災地に足を運ぶようになってから大切であると強く感じるようになってきました。

この被災地に学ぶ会では毎回、現地に着いてからその日の活動内容をボランティアセンターの方から頂くということになっておりますが、当たり前前に恵まれた環境にありますと、「あれがイヤ」「これはイヤ」・・・と自分の思い通りになることばかりを求めがちです。しかし本来、このように頂いたことを精一杯させて頂く事が尊いこと

あるということを学ばせて頂いていることに気が付かされます。内容、時間、天候、人数、環境などではなく、目的をしつかりと持って現地に入らせて頂く事ですべてが「ありがたい」と感じるようになりまます。

今回の活動場所であり「前網浜」の作業場所は、三月十一日の震災・津波被害の大きさ、出来事の中で状況の違いを目の当たりにする光景が広がっております。海から離れて行く程に高台になっており、海に近い下の方には家の土台すら残っていない現実と、数十メートル上には家が普通に存在している状況がありました。到着後にその違いを見て愕然としていた時、被害の無かった高台の家の前に、下で作業をするボランティアの活動をジッと見ておられた一人の女性が目に入りました。一体どういった気持ちで見ておられるのかと思おうと心が痛みました。おそらく、近所で住んでいた方々の家が流されていくのを見ておられたのかもしれない。決して自分の家は被害が免れたと喜んでいいとは思えません。きつと外に出る度に、あの日のことを思い出し、住む家がなくなつた近所に人のことを思うと居た堪れない心境であると察します。今回の活動場所は、以前のような広い水田のような場所ではありませんでしたが、その分、細かい作業でした。ガラス、煉瓦、コンクリート片、金属などの

分別が主な仕事でした。参加者の皆さんが、3班に分かれそれぞれ家一軒分の広さの範囲を分担して丁寧に行いました。時間の事もあり昼食の間も取らずに作業を続けている方もたくさんおられました。皆さんの思いは同じだと自分も黙々と作業に打ち込む事が出来ました。こういった事も被災地から学ぶ事でもあり、皆さんの思いがひとつに繋がっているのだと活動を通して強く感じる瞬間でもあります。

第六回、第七回は雨の中での作業でしたが、今回は作業を終えた頃から雨が降り出しました。そして大川小学校に着いた頃には、やはり雨が降っておりまして。そんな中、お線香をあげ、般若心経の中で黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りをさせて頂きました。何度足を運んでも言葉が出ない中、参加者の皆様とこうして手を合わせ、心からお祈りできる事ができ、我々が一度も会つた事もないこの地で亡くなった子供たちや先生方はきつと喜んで頂いていると思えるようになりました。そして自分の生きる力にしていかなければならない、周りの人たちを愛し、感謝していかなければという事を教えられているように強く感じます。すべての活動を終え道の駅に着くと、今回も浅野さんが来て下さっておりまして。常に笑顔で前向きな姿に毎回元気を頂きます。また、今回はバスにお渡しする野球用具を積ませて頂いたこと

もあり、石巻専修大学の酒井監督が車で物資を取りに来て頂き、先生方や野球部員たちとも会って頂くことが出来ました。話を聞いていると、まだまだ大変な状況のようですが前向きに学生達と共に頑張っておられる気力を感心しました。当たり前に野球ができている自分達ももっと頑張らなといいけない、まだまだやれるはずだと部員達も感じたことと思います。いつの日か、「石巻専修大学と大阪産業大学」の試合が実現する事が私の目標のひとつにもなっています。距離にすると1000キロ以上離れているのですが、今では大阪―石巻が近い存在になってきています。被災地に学ぶ会に参加させていただく中で、人とのつながり、活動を通しての心のふれあい、自分と向き合う大切な場が変わってきました。

そして今回も、遠くは鹿児島、熊本、山口、岡山といった遠方より参加して頂いた方がおられました。バスの中でお話を伺っておりまして、ただならぬ決意をもって参加されていると感じましたし、そのひと言ひと言に人の心の重みを感じました。我々にとりまして、学生たちにとりましても本当に勉強になることばかりでした。また今回は、行きは交通渋滞、帰りは雪での通行止めという中、往復三十時間以上ハンドルを握り続けていただいた神姫バスの三名の運転手の方々のお陰で無事に活動を終える事ができまし

たこと、辛い顔ひとつ見せずに我々にお気遣い頂きましたことに心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回も多くの参加希望者がおられる中、野球部員を、総人数の半分にも当たる22名も参加させて頂きましたこと、学生達に生きた勉強の場を与えて頂きましたことに心より感謝申し上げます。学生達にとりましてでも大きな経験だけではなく、今後の自分の人生における生きる力になっていく事と思います。私自身も学生共々、ここから新たなスタートにさせて頂きたいと思っております。

☆毎回の活動を支援して頂いております「日本を美しくする会」の鍵山秀三郎先生のご理解・ご協力と共に、今回の活動に際しまして一月初旬の厳しい時期に現地に入り、事前に見・打ち合わせなどで動いて頂きました大谷先生、東京の阿部様千種様のお陰で今回も無事に「被災地に学ぶ会」を終える事が出来ましたことに心より感謝申し上げます。

★★★大阪府20代 男性★★★

第八回被災地に学ぶ会に参加された皆様、そして長時間我々の活動を支えてくださった三名の運転手さん、ありがとうございます。また全面的にバックアップして下さいている日本を美し

くする会の皆様、本当にありがとうございます。今回の活動以前に石巻へ入り、全ての段取りをしただけです。皆様のお力に私はただ乗っかっただけです。

大谷先生の「おめでたい人になっていないか？」というお言葉が心に強く残っております。自分何かをしたとかは、どうでもよいことであって、我々の活動を支えて下さっている方のお力があってのことだということを中心に一番に置かないといけない、改めて学ばせて頂きました。ありがとうございます。

行きのバスの車内で隣に座っておられた浅井先生から「最後だとわかっていたら」の詩を教えて頂きました。家族の顔が頭に浮かび、胸が熱くなるのを感じました。今という瞬間が最後であるかもしれない。出発後すぐのバスの車内です。目頭が熱くなりました。

今回は、牡鹿半島前網浜にて活動させて頂きました。内容は、重機で自宅を取り壊した後に残ったガラス片やアスファルト片、瓦などを拾い集め分別するというものでした。地面に這いながら行う本当に小さな小さな作業でした。しかし、ボランティアセンターの方が仰るには、「そのような小さな作業が大切である」とのことでした。次にその土地に建物を建てる際に、その小さな作業が

生きてくるとのことでした。そのお言葉を受けて、作業に取り組まれる皆様の後ろ姿を拝見しながら、ただ丁寧にとただ丁寧というお気持ちの深さを見させて頂きました。【与えられた作業をただ丁寧にさせて頂く】ことに専念されている皆様のお姿から、人としてどうあるべきなのかということとを学ばせて頂きました。

作業中にお皿の破片がたくさんありました。このお皿を大切に使用していた方がおられるのだという事を想うと、それはただの陶器ではなく、とても愛おしく想え、涙があふれてきました。一見するとただの割れたお皿なのですが、そうは思えません。なぜか自分のもののように思えました。交通状況の影響で作業時間が限られましたが、それは問題ではありませんでした。大きい作業であるとか、小さい作業であるとか、自分たちはこんな作業がしたいとか、そういうことではなく、ただ謙虚にいたいということ。それがいかに重要であるかに気づかせて頂きました。

前網浜での作業の後、牡鹿のれん街へ立ち寄りさせて頂きました。ラーメン屋さんで味噌ラーメンを食べました。本当においしかったです。あつという間に食べてしまいました。

そして大川小学校へ行かせて頂きました。手を合わせ目を閉じると、自分の学校の子どもたちが頭に浮かびました。涙がとめどなくあふれ、子ども

もと日々接することができる自分がいかに幸せなのか。その幸せを噛みしめなければと心に誓いました。

そして道の駅には、本当にお忙しいなか浅野さんが時間を作って来て下さいました。お話しのかなに、「大阪や尼崎も地震が来たら、とてつもない被害を受けることになりそうです」と仰っていました。私は、昨年十一月に勤務している中学校の校区内の小学校で被災地の話しをさせて頂きました。そのとき、三年生の女の子が「河内長野に津波は来ますか？」と私に質問しました。その瞬間にハツとして、「自分は大丈夫」「大阪に地震は来ない」と心のどこかで考えていた自分に気がついたので。その女の子から「自分は大丈夫と思っていないか？」と、とてつもない大きなメッセージをもらったのです。しかし、今回浅野さんのお話で大阪の話題があがったとき、またそのことを忘れていた自分がいることに気がつきました。いかに自分が大阪で平和ボケしているのかということがわかりました。毎日温かい食事を食べ、温かい風呂に入り、温かい布団で寝て、会いたいひとに会い：今ある当たり前が、当たり前ではないということをすぐに忘れてしまっています。それが自分自身の弱いところであると痛感致しました。

帰りの車内は、皆様の考えられたことを聴かせ

て頂ける時間です。この時間がとても貴重なのです。牡鹿のエネオスが営業していたことに感動を覚えたという学生をはじめとして、大阪産業大学のみなさんは二十歳前後とは思えないほどしっかりされていて、感銘を受けました。また、別の学生さんが言っておられた「大阪に戻ってからの生活が大事」という言葉に、まさにその通りだと自分自身の肝に銘じました。皆様からは、チームを作るのではなくチームになるということ、見えないものを見ようとすること、見つけようとして見つかるということ、数回来たからといってわかった気になってはいけないということ、評価されないから嫌だということではなく原点を大切にし、小さいことを大切にすること、ひとつのものを最後まで使い想いを込めるということ、誰一人けがすることなく終わることができたことに感謝しなければならぬということ、携わって下さった全ての方の配慮があつてのことだとということ、自分が毎日学校に行けているということとは普通ではないということ、我々が作業をすると必ずどなたかに迷惑がかかっているということ、そしてそれをふまえると、自分たちが何かをして何かを学んだというレベルのことでないということ、など多くの学びと気づきを与えて頂きました。私自身、このように皆様の考えに触れさせて頂き、「よし！自分も意識を変えよ

う！」と心に決め、その時点ですでに自分が変わる事ができた気になっておりました。しかし、それだけではいけないということがよくわかりました。みなさまは、行動に移されて、そしてそれを継続されています。自分との違いはまさにそこだと痛感致しました。意識を変えただけで変わった気になっている自分がいることに気がつきました。大切なことは、行動に移すことであって、さらに継続することです。これからは、皆様から頂いた学びと気づきを行動に移し、そして継続していくことで自分自身を変化させていきたいと思えます。

最後になりましたが、片道十六時間という長時間運転して下さい、現地での移動時間も含め全行程四十時間において全くお休みを取らずに我々を笑顔で支えてくださった三名の運転手の方から感謝致します。皆様、ありがとうございます。

★★鹿児島県50代 男性★★

ニュースや天気予報を見ると、日本全国が冷蔵庫状態にあり、各地で積雪被害の報道を聞く。

一月二十一日の『被災地に学ぶ会』は、幸いにも積雪もなく三時間、瓦礫撤去作業をさせて頂いた。実際に自分自身の足で被災地に立って見ると、

メディアの報道では伝わらなかった災害にたいする『恐怖』、家族や友人をうしなつた『悲しみ』、今まで築きあげてきた生活が一瞬で消え去つた『憤りと虚しさ』等、地面から嗚咽の如く私の心に訴えかけてくる。

ややもすると、私達九州の人間は、今回の災害を何処か遠くの外国で起こつた事のように思っているところがある。同じ日本人として、歯を食いしばって立ち上がろうとしている東北の人達に、『今自分が出来る事は何か』をしっかりと考え、決して優しさの押し売りや、奉仕心の自己満足になつてはいけない。被災地復興ボランティアという印籠をふりかざし、平気で被害者の心の中に土足で踏み込むような事はあつてはならない。掃除の会で培つた『感謝の気持ち』を大切に、今頂いている『命』を、人が笑顔で喜んでくださるように使つていきたい。

★★★大阪府40代 男性★★★

『今回の行程は四十時間、うち三十二時間がバスの移動時間でした。雪の影響で高速道路に通行止めが出たため、普段より余計にかかつてしまつたのです。夕方に風呂や夕食の時間をとつた時間等を差し引くと、現地での作業は四時間足らずとといったところでした。』

今回の作業地は牡鹿半島の東北海岸、前網浜と  
いうところで、目の前の海から二〇メートルほど  
隔ててすぐに住居が何軒もありました。もちろん、  
住居のあつたところにはすでに重機が入り、全壊  
家屋はすべて処理済でしたので、そこは一面更地  
でした。

更地にはガラス片や金属片、瓦やコンクリートの割れた欠片が土中に埋まつておりました。人間のつくつたものがそつやつつ粉々になつているのに対し、雑草はたとえ枯れていても土中深くまで根を張つており、スコップを入れてもなかなか抜くことができませんでした。海のすぐそばにあるこの更地が今後住居として用いられることはないとは思いますが、それでも生活のかかつた漁師の方々はこの地を離れることもできず、仮設であれ事務所等をこの更地の上に建てなければなりません。私たちの作業は、そのようなニーズのもとに、ただただ目の前の欠片を除去することでした。

少ない時間で黙々と作業がおこなわれていきます。次々と積みまれていく石やコンクリート、雑草は一メートル近くの高さになります。それでは軽トラまで運びましょう、と誰かが周囲に声をかけると、一斉にその集積場へと人が集まり、白い麻袋の口を広げ持つ人、石やコンクリをその麻袋に入れる人、軽トラまでそれを運搬する人、めい

めいが自分の持ち場で一生懸命に活動されてい  
ました。

「あつという間に石と雑草の山がなくなつたね」  
「ほんと。こんなの一人じゃやる気になりません  
ね」

みんなががれきの処理をすれば、あつという間  
でした。少しでも早くこの地が復興しますように、  
と心をついにして。「がれきとは我歴」という大  
谷先生のお言葉を忘れず、丁寧な気持ちで。

これを、もし一人でしなければならぬとしたら、どうでしょう。できなくはないのでしようが、みんなですると比べて何倍もの時間をかけて、この単調な作業をしなければなりません。気が遠くなることでしょう。もし、ここにお住まいになつていたご本人がのがれき撤去作業をなさるとすれば、さらに大変です。長い長い時間の作業の中で、全てを失つたやるせなさやら、家族を守れなかつた情けなさやらと直面し、作業を中止せざるを得ないかもしれないのですから。土中からはコンクリ片や金属片だけではなく、コップやネックレス、ゲーム機のコントローラーなど、まさに「我歴」と呼ぶにふさわしいものも出てきます。よそ者の私たちですら作業の手を止めてしまふがれきを、ご本人ならばどのような思いで「撤去」なさるのでしようか。

現地の人々が「ボランティア依存」になつてい

るのではないかという声も裏で聞こえる昨今ではありますが、今後も支援は絶対に必要であると私は確信いたしました。逆に、今こそ支援の手を厚くしなければならぬと感じました。

みんなで心をこめて作業をする。現地の人たちの無念を思いながら、作業をする。被災された皆様の次のステップのお手伝いをする。それがどれだけ短時間の作業であっても。どれだけ微小であっても、積み重ねていけばいつかはきつと大きなものになる―今後もこのような支援の大切さを周囲にお伝えしてまいりたいと思います。それが八回にわたる「被災地に学ぶ会」の石巻派遣を支えて下さる方々のご恩に、報いることにもなると思っております。今回も参加させていただき、ありがとうございました。

#### 追記

帰途の「道の駅」で今回も鹿妻小学校で世話役をなさっていた浅野様に再会いたしました。理屈抜きに、心から嬉しいひとときでした。また、大阪産業大野球部の学生さんや岡山県興譲館高校の生徒さんたちの立派な立ち振る舞いにも感動しました。宇部掃除に学ぶ会の山根様のパワフルなお姿にも元気をいただきました。貴重なご縁に感謝するとともに、このご縁を今後とも大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。

#### ★奈良県30代 女性★

今回も「日本美しくする会」の方々のおかげでバスに乗らせて頂くことができ、本当に有り難かったです。

前回の帰りのバスで「いつかクラスの子たちに大川小学校のことを伝えることができたかと思うのです。」と言ってから、なぜかすぐ伝えようという思いになりました。決して伝えられる自分になれたわけではないのですが、もしかすると目の前の子たちをこれまで以上に信頼できたのかもしれないなあと思っています。バスの中で私の言葉を受けてくれる方々がいて、そういう方々のおかげで、そう思えたのかもしれない。

クラスの子たちに今の自分ができる話をしました。自分が想像していた以上にクラスの子たちは思いを受け取ろうとしてくれる表情がありました。そのあと大川小学校につながる記事やお話に出会い、今回はいつも以上参加させていただきたく思っていました。

こうやって話せたのも「学ぶ会」に参加できたおかげです。参加させて頂けるたび、この席を譲って下さったかたがいることを聴きます。そろそろ、私が席を譲らなければいけないのかもしれないと思いつつも、参加させて頂きつつおかげでこうやってクラスの子たちと向き合えたと思います。本当に有り難く、感謝でいっぱいです。今

回は、行き帰りの途中の道の状態のせいで、運転手さんにもいつも以上に気を使って頂きました。改めて沢山の方々の支えがあつて参加させて頂けているのだと感じました。

今回の場所は今までとは違い、一見整備されたかのように見える場でした。そこにあるガラスの破片やコンクリート、瓦の破片などを分別するのが今回の作業でした。一つひとつ、一粒ひとつぶ、手に取るたび、この瓦の下でくらしおられた方、この湯のみでお茶を飲んでいた方の存在を思い出しました。なんでもない日常も、思い出も、たつぷりつまっているような気がして大谷先生の「丁寧に」という言葉を心の中でめぐらせていました。一粒ひとつぶが愛おしく、時どき無意識に握りしめてしまうほどでした。でも、あれから十カ月：少しでも早くという思いもないわけではなく：。そういう思いはあるものの、今回の作業で、機械ではなく人の手でしかできないことがまだあるんだと思えました。そういう輪の中に自分もいさせてもらえるのがとても有り難かったです。

帰りのバスの中ではみなさんの学びに学ばせて頂きました。とりわけ学生さんたちの向かう時のひとことと、帰りの言葉の変化には感動しました。きっと、目の前の子たちも心を耕せるチャンスさえあれば：そう感じました。浅野さんのお子さんが避難所の中で自分の目標に向かいコツコ

ツと努力するお話を聴き、日々のあわただしさの中、自分のことで精一杯になり、自分に言いわけをしていることが恥ずかしくなりました。

また、翌朝の山根さんのお話や木練さんのお話、富平くんのお話には本当に心がふるえました。人柄や思いがとても伝わってきました。ご自身のことを語って下さり自分のことと重ねながら聴いていました。人のぬくもりや、支えをととても感じました。本当にありがとうございます。

★★大阪府30代 男性★★

私は、『被災地に学ぶ会』に参加させていただいて、今回で三回目でした。誰かと一緒になく一人で申し込んだのは、今回が初めてでした。躊躇せずに、行きたい！と思い、すぐに申し込めた理由の一つは、東北の存在が自分にとってかなり大きくなっていったからです。次回の『学ぶ会』は三月以降だと伺っていたので、少し胸に引っかかる思いはありましたが、しよすがないなと思っていました。しかし、天気予報で自然と宮城の気候を気にし、雪がふる町や、そこで生活している方々、を想像している自分がありました。そんな時に、大谷先生の年始の報告と今回の開催を聞き、とてもうれしくなりました。もう一つの理由は、今まで参加させていただいている『被災地に学ぶ会』の

中で、みなさんと学ばせていただくことが、自分にとってとても大切で大きいものになっているからだと思います。年齢も性別も生きている環境も全然違うのに、最後帰ってくるころには、本当にチームの一員なんだ、と思えるようになっていきます。だから、行けば何とかなるかなと思えていました。しかし、実際はどきどきして集合場所へ行きました。すると、前回一緒に話した方が話しかけてきてくださいました。行きのバス中の自己紹介中に、今まで一緒に話した方のお話を聞いていて一人で思い切って参加させていただいて本当に良かったと思いました。

今回は、活動以上に楽しみにしていたことがありました。『くじらのしっぽ』のパンと、ボランティアセンター横にできたというのれん街へ行くことです。行きのバスで『くじらのしっぽ』のみなさんにお休みなのに、参加するみんなの前日に作っていたいただいたことを聞きました。そんな特別な思いが詰まったパンを、たくさん種類の中から選び、活動の途中にいただいたときは、本当においしくてとても幸せな気持ちになりました。のれん街では、地元の食材をお店の方々とお話ししながらおいしくいただくことができました。本当は一軒ずつ同じように触れ合いたかったです。漁をする網で作ったミサンガと特産物がかわいくデザインされたTシャツも買ってきまし

た。現地のを身に着けているだけでも、少しでも石巻を身近に感じられる気がします。こんなに、自分が東北を身近に感じるようになると思っていなかったです。会に参加させていただいて本当に感謝しています。

今回は、一緒に活動できたみなさんから、本当にたくさんのお話を学ばせていただきました。『一期一会』という言葉をもっと大切に感じたいと思います。自分のことを話し、聞いてもと築けていることが本当にすごいです。自分の経験から学び大切に感じることを教えてくださいました先輩方にとっても感謝しています。どんなことも受け入れて。相手を想って、自分の言葉でアドバイスをくださる…というか、認めてくださる大きな器を持つて方にお会いできて、とても心が洗われた思いでした。この貴重な体験を、大切な生徒や部員に経験させてあげていらっしゃる先生方を見て、その場でとても成長されている生徒の方々を見て、『先生』って本当に素敵なお仕事だなあとあらためて感じました。

一人では、気づけないことに、またたくさん気づかせていただき、上や前を向かせていただきました。今回一緒にチームを作ってくくださったみなさんに本当に感謝の気持ちです。『被災地に学ぶ会』を開催していただき、本当にあり

がとうございます。私にできる方法で、被災地のこと、まなばせていただいたことを伝えていきたいと思えます。

★★大阪府30代 男性★★

「第八回被災地に学ぶ会」に参加させていただき、有り難うございました。

一月二十日(金)の夜に尼崎駅前に集合し、バスで出発しました。雪の降る中、バスの運転手の方々はたくさん命をあずかって、責任を持ってハンドルをにぎってくださいました。

被災地を訪れたのは今回が二回目で、前回(第六回被災地に学ぶ会)は十一月でした。二ヶ月が経っていることになりませんが、やはり復旧には途方もないほど多くの時間がかかると思いました。町の中に瓦礫や廃車が積まれた山があります。ところどころで、津波で流されてきただろう多くの物が岩肌にくっついていてのを目にします。また、前回、瓦礫撤去をした水田の横をバスで通ったのですが、津波で流されてきた船が撤去されずにまだ残った状態でした。

牡鹿半島に着き、ボランティアセンターで当日の作業内容を聞き、作業着に着替えました。雪が降っているかなと思つて厚着をして行きました。幸い雪はほとんど降っていませんでした。

その日は、地面の中にあるガラス片やコンクリート片などの瓦礫を取り除く作業をしました。大きな瓦礫はもう既に重機を使って動かされていて、小さなものを丁寧に取り除きます。だいたい教室ぐらいの広さの土地を、十人ぐらいの人数できれいにしていきます。前にした水田での作業に比べると、大きなものをドカッと動かすわけではなく地味な作業ですし、被災された地域全体からすると本当にごくわずかの面積です。それでも、わずかでも着実に前進することの大切さを考えながら、土の中からガラス片を探しました。鍵山先生の「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」という言葉はこういうことかな、と思いました。安心してその土地を使えるようにと思いつながら、土を掘ってガラスを探しました。

仮設商店街では、店舗数が増えています。ラーメン屋さんに入り、味噌ラーメンをいただいて体をあたためました。前回もこのラーメン屋さんに入ったのですが、「自分はなんて気がきかないんだろう」と思い続けていたことが一つありました。それは、前回ラーメンを食べ終わった時に、「ごちそうさま」としか言わず、ただお金を払って店を出てしまったことです。経済的復興への第一歩としてようやく開店までこぎつけたお店の方々に何かもう一言なかったのか、後で自分が情けなく思っていました。ですから、今回は、も

う一言を必ず言おうと思っていました。今回は、「ごちそうさまでした。」の後に「むちやくちやおいしかったです。」をつけ加えることができました。心のとげがとれたように感じました。

その後、大川小学校にご冥福をお祈りするために行きました。まわりは真つ暗なのですが、その校舎内にイルミネーションが施されていました。ご遺族の方々のご配慮で、亡くなったお子さんの魂がさびしく感じないように用意されたのだと思います。

帰りのバスの中では、参加者の話を聞きました。いろいろな職業の方が参加されていたのですが、九州から来られている方々や、大学生、高校生、中学生も参加していました。それぞれの想いを聞くことができ、また私の話も一生懸命に聞いていただきました。最初は知らなかった者どうしでしたが、バスの中に一体感が生まれていて、一つのチームのようになっていました。

今回、このような学びの場を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。被災地で学ばせていただいたことは、小学校教師として、子ども達に返していきたいと思えます。本当に有り難うございました。

★大阪府20代 男性★

今回監督さんに声をかけて頂いて前から行き  
たかったので行かしてくださいと言いました。自  
分は初めてボランティアというものに参加しま  
した。行きの車内での自己紹介で先生方のボラン  
ティアに対する熱い想いがすごく伝わりました。  
実際現地に着き被災地を目の当たりにすると  
言葉が出ませんでした。テレビや新聞で見た光景  
が目の前にあり殆ど建物は残ってなく戦争の爪  
痕かと思うほどでした。

瓦礫撤去の作業をしているとゲーム機の操作  
機やカーテンなど生活感があるものが土に埋ま  
っていてなんとも言えない気持ちになりました。  
目の前が海で津波の到達地点と思われる跡が上  
の方まであり、そこにポツンと端っこに残ってい  
た観音様が印象的でした。

今回被災地に足を運んでみてこうやってやり  
たい事やれる事がどんなに幸せな事か思い知  
らされました。渋滞などの影響で到着時間が遅れ  
たので作業する時間が短かったですがすごく貴  
重な体験が出来ました。これから先、生きていく  
上で決して忘れる事もないし、この東日本大震災  
はある意味歴史に残る出来事やし将来子供が出  
来て物心付いた時にどんな状況やったか伝えら  
れることができると思います。ありがとうございます  
ました。

★大阪府10代 男性★

今回初めて石巻ボランティアに行かせていた  
だきました。行ってみて思ったのが、みんなが言  
っていたように、『行ってみよな分かれへん』と  
言っていたのが本当にそうだなと思いました。テ  
レビを見てでは、『やばいな』とか『すごいな』  
とか簡単に言葉にでるのですが、実際に現地に行  
って被災地の光景を見てみると、自分が思ってい  
たより酷かったので言葉がでないのが現実でし  
た。

大川小学校に行ったときとてもショックで胸  
が痛かったです。でもこのような状況なのに被災  
地の人は前を向いて頑張っていると思うと、逆  
に僕自身が元気をもらうことができました。あり  
がとうございます。また僕たちがこのようなボラ  
ンティアをする事によって、少しでも被災地の人  
達の力になれるのであれば、僕はもつとボランテ  
ィアなどに参加して力になりたいなと思いまし  
た。

★大阪府20代 男性★

今回、第八回被災地に学ぶ会に参加させていた  
だき本当にありがとうございます。私は、九月  
に引き続き二回目の参加になります。この様に、  
被災地に行き支援活動に参加させていただける

こと、私の勉強の場を与えていただいたこと、本  
当に感謝しています。

前回、参加させていただいた後も様々な経験を  
させていただきました。文化祭で避難所で余って  
しまった物資の販売を行いました。(売上金は義  
援金としました)「私のできることで、少しでも  
力になりたい。」「私達を受け入れて下さった被  
災地の方々や被災地に学ぶ会の皆様に様々なこ  
とを学ばせていただき、その経験から感謝の気持  
ちと恩返しをしたい」という想いで行いました。

鹿妻小学校の避難所リーダーの浅野さんにも来  
ていただき文化祭を楽しんでいただきたいと思  
っていたのですが、私達以上に声を張り上げ頭  
に立ち販売しておられました。その姿に感銘を受  
けましたし、私はそこに今回の震災の大きさ、実  
際に震災を体験された方の苦勞が見えました。そ  
んな事もわかっていない状態で、私が参加してい  
たことに、情けなく思いました。被災地の方は現  
場で様々な苦勞や死、自分の思い出が無くなって  
しまった想いをされていて、私の心意気とは違う  
次元だという気付きもありました。私は実際に体  
験してはいませんが、厚かましい気持ちではあり  
ますが被災地の方々の気持ちを少しでも理解  
したいと思っております。

他にも「大阪市主催の人権フォーラム」にもチ  
ームメイトと参加させていただきました。様々な

ボランティアをされている方と話や討論を行い、人はそれぞれ考え方や想いは違いますが様々な意見を交わし勉強をさせていただく中で本当に「つながり」を感じました。

今回嬉しかった事は、前回(九月)参加させていただいた時にガソリンスタンドの作業をさせていただきました。台風の影響で歩道のブロックが浮き上がり泥がガソリンスタンド内に上がっており、何ヶ月も待つておられたら営業再開まで一日と近づいていたのですが、三日一週間延びてしまうという、おじさんの顔を見ているとすごく残念な気持ちになりました。しかし今回、バスの給油でそのガソリンスタンドに立ち寄るとおじさんが働いておられました。私はただできることをやらせていただいただけなのですが、本当に嬉しかったです。

門脇小学校や大川小学校を目の前にし、言葉にならない気持ちになりました。大川小学校は2回目ですが、何回見ても本当に天災の怖さを感じました。私より年下の子供達がすごく怖い気持ちをされていて、尊い命亡くしてしまい私自身今の生活を見直さないといけないですし、生かしていただいていることに感謝する気持ちが出てきます。瓦礫撤去の作業をしましたが、瓦礫や石を拾うことでも私は未熟さを感じました。細かいところまでできていない自分や確実に目に見える物し

かできていないことを、作業をしていて気づきました。これは今の私の現状です。

バスの中でも様々な話を被災地に学ぶ会の皆様から聞かせていただきました。「怒(他人の立場や心情を察すること。思いやり。)」「自分の一つの行動に多くの人が動いている」「つながりは続くもの」「3C チャンス→チャレンジ→チエンジ」「見えない部分を見えるように」「明日が来ることは約束されてない」「ボランティアは出合いに行く」など様々な言葉を話していただき本当に考えさせていただくことができましたし勉強になります。被災地の方やボランティアに参加されている人としてのプロの方達の話や聞けた事で成長するきっかけを与えて下さり有り難く思っています。

前回と今回参加させていただき、東北地方の復興への作業に携わる事ができ、被災地の方、被災地から学ぶ会の方々、宮崎監督、送り出してくれた両親・チームメイトには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を必ず私生活、学校生活、クラブ活動へと生かしていきます。この様な経験をさせていただいたからには、二倍も三倍も成長したいと思っています。そして、これから何年、何十年経っても継続したいと思っています。自分の今できることを必死に、一生懸命にやっています。ありがとうございます。

★★大阪府10代 男性★★

今回自分は初めて石巻にボランティアに行かしてもらいました。現地でのボランティア活動では瓦礫撤去をしました。三班にわかれて燃えるもの燃えないものの仕分けをしながら三時間ほどボランティア活動をしました。津波で流された家の傷跡が凄く高い位置まであったことは凄く驚きました。みんなとても真剣に黙々と作業をしていて時間がたつのがとても早かったです。まだまだやり足りない気持ちでいっぱいでした。現地の人達はこのような作業を約十ヶ月毎日していると思うと現地の人達の凄さや強さをすごく感じました。瓦礫の中には自分たちが日頃使っている物や目にした物がたくさんありそういったものにした時にとっても悲しい気持ちになりました。それから大川小学校に行き全員が目をつぶり黙祷しました。夜だったのではつきり見えた訳ではないですけど空気がどうかその場は今まで味わったことのない静けさや空気がありました。言葉では伝えられなくて行った人にしかあの独特の感覚は味わえないと思います。今回石巻でボランティアをさせてもらって自分が少しだけでも成長できたと思えるよう大阪に戻ってからも今日一日のボランティア活動の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思えます。

今回のボランティア活動で出会った方々の縁は凄く大切にしていきたいと思います。是非春のリーグ戦に観戦に来てほしいです。野球をしている姿、一つの目標に全員が向いているという若者の姿を見ていただいて宮崎監督を初め僕たちの事をもっと知ってほしいです。短い間でしたがありがとうございます。

★★大阪府20代 男性★★

今回、石巻ボランティアに参加させていただきましたありがとうございます。僕は、二回目の参加になりました。まず二回も行かせていただいたことをとても感謝しています。

今回行かせていただいて感じたことが大きく三つあります。まず一つ目は石巻の街の状況がほんの少しずつ復興に向けて一回目行ったときよりも進んでいると感じました。それは被災地の方々が懸命に復興に向けて努力し続けているからだと思います。私たちには到底できることではありません。尊敬しています。しかし、まだまだ完全に復興するまでには一割にも達していない状態だと思います。これからも引き続き少しでも力になれるように足を運んでいきたいと思っています。

二つ目は自分自身の弱さを感じました。特に現

地で年中ボランティアを行っている人たちの姿を見て学ぶことがたくさんありました。私たちはたった三〜五時間程度お手伝いをして帰るだけで、帰れば普通の生活に戻るので。だから、その日ぐらいは必死で頑張れるのです。しかし、ボランティアで現地ですっという人たちは毎日、それが続くのです。作業している姿を見ても無駄話をしていない人なんか一人もいません。ただ黙々とひたすら作業を行っていました。そして、たった一日で帰る私たちにも感謝の言葉を丁寧に伝えてくれるのです。平和ボケしている私であれば、逆の立場な皮肉を言っているかもしれません。そこで私は人のこと関係なく自分のやっていることに誇りを持ち、コツコツと黙々とする事の格好良さを感じました。そういう人たちのようになることが、目標の一つになりました。

最後に二回で終わらずまだまだ継続して行く必要があると思いました。それは被災地復興のためと同時に少し自分自身の成長のためです。被災地が少しでも早く復興する事が一番大事だと思うので、こんな自分でも少しでも力になればと思います。

石巻に行かせていただくと、毎回成長させていただいように思います。何かと言われれば、言葉では言い表せませんが普段の生活を頑張れるのです。何かパワーがもらえます。現地の人々

の生きる力を感じて少し分けていただいているのかもしれない。いつか自分が力を分け与えられるような人間になろうと思えるようになりたい。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

★★大阪府20代 男性★★

僕は今回初めてボランティアに参加させていただきました。バスの中での参加者の皆さんの話を聞いていて、改めて、生きることにについて考えました。そして、自分は生きているのではなく、周りの人のおかげで生かされているのだと気づくことができました。

現地での活動では、家があった跡地をきれいにしてガラスやコンクリートを仕分けするという作業でした。活動するときには大谷先生がバスの中で話していたことを思い出しました。茶わんの破片やスプーンなど僕ら他人からしたらゴミや瓦礫に思うかもしれないけどそこに住んでいた人からしたら一つひとつが思い出のあるものであり、そう思うと簡単にゴミとは言えないですし、丁寧に扱わなくてはならないと思いました。

大川小学校では、この場所で大谷さんの児童が津波にのまれ多くの生命が失われたのかと思うと胸が引き裂かれるような思いでした。改めて津

波の恐ろしさを感じました。今回ボランティアに参加させていただいて、生命の尊さ、人のために行動することのすばらしさ、そして今の自分がどれだけ恵まれた生活をしていたか気づくことができず、それと同時に今できることを全力でやっけて来なかった自分に後悔しましたし、すぐに楽な方に逃げてしまっていた自分の弱さを痛感しました。被災地の方々は復興に向けて前を向いて生きていました。石巻で感じたことをこの場限りの活動にせず、これからの人生に生かしていきたいです。このような機会を与えていただきありがとうございます。

★大阪府10代 男性★

今回、自分は初めて被災地に学ぶ会に参加させて頂きました。地震が起きてから日も経っているのでかなり復興が進んでいるのではと現地に着くまではそう思っていました。しかし実際に現地に着いた時に見たのは想像していたものよりひどい光景でした。『地震が起きるまではここは住宅地でした。』と説明されるのですが全くと言っていいほどその面影もない更地に正直、驚きと同時にどこかゾッとするような怖さがこみ上げてきました。実際に瓦礫撤去の作業を行った場所もまた津波に潰された家の後の更地だったのです

が作業をしながら地震が起るまでは普通の生活をここでしていたのかと考えながら作業をしていくうちに今の自分の生活がどれほど有難いことなのか身に染みてわかりました。

大川小学校に訪れた時も改めて命の尊さについて考えさせられました。それと同時に今まで生きていくことへの感謝の気持ちを持っていなかったことに気づきました。こうやって健康に生きていくことは決して当たり前のことではないのだ。家族がいて友達がいて、周りの方々に自分を生かされているのだという気持ちでいっぱいになりました。

今回被災地に学ぶ会に参加させて頂き、本当にたくさんの方のことを考え、学ばせて頂きました。バスの中での会の皆様の話を聞かせて頂いたとき自分もこんな風に心の豊かな人間になりたいと強く思いました。本当に感謝しています。この被災地に学ぶ会で得た心を今後の生活、人生に浸透させ、常に『生かして頂いて有難うございます』の気持ちで日々生きていきます。本当にありがとうございます。

★大阪府10代 男性★

今回初めて石巻のボランティア活動に参加させて頂きました。初めて被災地に行ったのですが、

光景に衝撃を受けました。自分が思っている以上でした。自然というものは生活をしていく上でかせないものですが、時に本当に怖いものにもなるのだなと思いました。

ガレキ撤去の作業をしている時に生活用品など見つけると、戸惑いました。泥だらけで使えなくても、以前使っていた家族の思い出のものを簡単に捨てることはできないなと思いました。なので作業を慎重にやらせてもらいました。自分がやったことは小さなことかもしれませんが、でもほんの少しでも復興につながればいいなと思います。今回本当に多くのことを学ばさせて頂きました。また自分自身の考え方も変わりました。学校では学べないことが学べた気がします。また行かせていただける機会があると思います。ぜひ行かせていただきたいと思っています。ありがとうございます。

★大阪府10代 男性★

二十日から二十二日にかけて宮城県石巻市に行かせていただいて、最初私はボランティア活動をすると言う目的で行くつもりでした。しかし行きしなに配られたスケジュール等が書いてある冊子の表紙に『ボランティア活動に行くのではなく、被災地という場をお借りして、人としての生き方を学ばせて頂く会』と書いてあり、行く前に

目を通して良かったと思いました。

被災地に着くとすぐに作業に取り掛かり、時間が経つのが早く私と高瀬は昼食を取らずに作業に取り組みました。作業をしていると、昼食を取っている時間ももつたいたなく感じました。ひたすら、瓦、レンガ、ガラス、木材を別ける地味な作業でしたが、ものすごくやり甲斐を感じました。あれだけのボランティアの人達が代わる代わるに訪れて、作業に当たってれば、被災地の復興も早くなり、石巻市にもまた明るさと元気が戻るのも時間の問題だと思いました。

産大野球部も自分もまた何度も被災地に足を運び、何かを感じて少しでも役に立てるようにこの体験を無駄にしないようにしていきたいと思いました。いつ関西も大災害が起きるかわからない。その時に東北の人達に心の支えになっていただけるように、産大野球部が中心になって被災地に元氣と活気を当てられるように、また行く機会を大切にしていきたいと思えます。

★★大阪府10代 男性★★

今回初めて石巻にいかせてもらいました。はじめは被災地が見れるのとどんな作業ができるのかで楽しみな部分もありました。しかし、いざ被災地の光景をまの当たりにすると今までの気持

ちが変わり、真剣な気持ちで少しでも役にたたなければと思えました。

実際に作業をするとガラスやレンガなど細かい作業もありました。普段だと嫌になるような作業がなぜか率先して頑張る事が出来ました。それは、少しでも力になりたいとの思いが行動に現れたんだと思います。この気持ちを持って普段の私生活、野球に取り組みればと思います。今回参加できなかった人や被災地に行っていない人にも伝えることが大切だと思います。なかなか言葉で伝えることは難しいと思いますが少しでも多くの人に伝えられたらと思っています。そして、今回気づかせてもらったことを忘れずに頑張るって行こうと思います。

★★大阪府20代 男性★★

今回はじめて石巻のボランティアにさせていただけました。自分にとつて今回のボランティア参加はすごくいい経験になり、やはり実際にその現場に行かないとわからない事がたくさんありました。本当にその現地に自分がたつた瞬間に衝撃を受けました。震災場所に入ってから本当は家などがあった場所、元々何かがあった場合など津波でなくなり、瓦礫の山、津波で流され動けなくなった車の山を見てすごく胸が痛くなりました。

今日のボランティアでは瓦礫撤去という仕事になりました。今回たくさんの人達が参加していましたが、作業をしていく中で思ったのはやはり団結力のすごさです。あれだけの人数で力を合わせてやればすごくたくさんさんの瓦礫を集める事ができたし、すごく作業をした所が綺麗になりました。それでもまだまだの瓦礫があり震災があつてから日にちはたっているなかでも復興できていないのだなあと思いました。改めて震災場所に行ってみてすごく津波の怖さが伝わってきました。作業が終わった後、震災の被害にあつた大川小学校に行つた。そこに行つた時は自分が普通に生活して野球ができる事が当たり前じゃないという事をすごく実感しました。この気持ちを大阪に持つて帰り、今回行つていない部員達にしっかりと伝えていきたいと思えます。今、野球のできる大切さをしっかりとつて明日からの生活を改めてしていきたいと思う。この貴重な体験をいい経験にしてこれからやっていきたいです。また機会があればまた絶対に参加させていたきたいと思つていきます。少しでも被災地の力になれるようにやっていきたいです。

★★大阪府10代 男性★★

僕は今回初めて被災地に学ぶ会に参加させてもらいました。テレビや新聞では被災地の状況を見てはいたんですが先輩方が口をそろえて行ってみないとわからない事がたくさんあると言っていたので一度自分の目で確かめたいと思っていました。しかし震災からだいぶ月日が経っているのでボランティア活動と言ってもあまりすることがないのではないかと行く前には思っていました。しかし実際に現地に行ってみるとまだ手付かずのところがたくさんありました衝撃を受けましたがこれが現実なんだと思いました。

作業しているとコップや皿などの家庭で使っていたものがたくさん出てきました。僕らにとってはただのコップかもしれないですがそこに住んでいた人達にとっては大事なものであり、思い出の品だったのかと考えると簡単には捨てられないと思います。ボランティア活動という名前だけ聞くと単純に思えるかもしれませんが実際に活動してみると考えさせられる事がたくさんありました。この活動を通して色々なことを経験させてもらいました。やはり行って初めて分かることがたくさんありました。僕はこの活動は続けることに意味があると思うので機会があればまた参加したいと考えています。

★★大阪府20代 男性★★

「被災地に学ぶ会」に参加させて頂くのは今回が二回目でした。今回も多くの方々の協力で被災地に足を運ぶことができ、多くのことを学ばせて頂きました。また参加したい方も多くおられる中で、大阪産業大学野球部から多く参加させて頂き、本当にありがとうございます。

私は、五回目の時に参加させて頂いてから、一度だけでなく何度も参加させて頂きたいと思っていました。初めて参加した時にそれだけ学ぶことが多かったし、一度だけでは物足りませんでした。大きなことは自分にはできませんが、その分、何度も足を運ばせて頂きたいと思っていました。また震災から十か月が経ち、どれくらい復興しているのか一番気になっていました。しかし、実際に被災地に着くと、まだまだ復興に長い時間が掛かりそうな光景が残っていました。

今回の作業は、重機によって解体された家の瓦礫を拾う作業でした。正直、地道な作業でしたが、食器や衣服、御守りのような物も出てきて、生活していた方は現在どのような暮らしをしているのか心配になりました。作業時間は四時間もありませんでしたが、昼食をとる時間がもったいなく思ひ、続けて作業をさせて頂きました。また被災地に学ぶ会に参加させて頂き、今回もチームのよゆうな一体感をすごく感じました。初めて会う方も

おられる中で、ここまで一体感が生まれることは素晴らしいと思いますし、一人一人が様々な強い思いを持って作業しているから、生まれたものだと感じました。

作業後は、仮設商店街と大川小学校に立ち寄りさせて頂きました。大川小学校は言葉では表すことの出来ない雰囲気を感じましたし、津波が来た時の光景を想像すると本当に恐ろしく思いました。生きたくても生きられない子供達がいる中で、自分ができることはすべてに感謝して一生懸命に生きることでたと教えて頂きました。

今回は事故渋滞や雪の影響で高速道路が通行止めになったりと大変でしたが、最後まで責任を持ってバスの運転手さんは運転して頂きました。三人で往復三十時間も掛けて運転する精神力には、野球をしている自分達も驚かされます。運転手さん以外にも、多くの方々の方々の協力でこの様な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

★★大阪府20代 男性★★

今回二回目の石巻のボランティアにいかしてもらいました。今回の目的も東北の場を借りて学ばしてもらおうことです。行きのバスでは十五時間ぐらいかかりましたが先生がたの熱い思いの話をお聞きしてもらい改めて津波の凄さを感じさせ

られますし、その中で今の自分が本当にちゃんと大学生活をおくっているのかを考え直されました。

石巻についてのボランティア作業は潰れた家の瓦礫撤去です。コンクリートや瓦やガラスの破片を綺麗に仕分けする作業で、至って簡単で誰もができる作業だがこの家にはたくさん思い出があつて大切なものがまだ埋まっていると思つたら適当に作業はできません。見た目は瓦礫かもしれないが遺品かもしれないので大切に仕分けをしながらか作業しました。最初は瓦礫がたくさんあつて四時間で終わらないかもしれないかと思つていたらしつかり四時間で終わるぐらいまで作業が進んでいました。一人一人力を合わせて作業をするとスムーズに進んで自分が思う以上に作業ができるのがわかりました。これは野球も一緒に一人の力はしれているが一人一人力を合わせるの予想以上の力が出ることです。

自分はこの東北ボランティアで自分をも一度見つめ直して名をして人間性を伸ばして行きたいと思つています。

それには自分がまだ知らない場所に足を運んだりもつと人と触れ合つたりして人間の繋がりを大切に行きたいと思つています。これからもボランティアに参加してもらいもつと学ばしてもらいたいと思つています。

★★★大阪府20代 男性★★★

僕は初めて「被災地に学ぶ会」に参加させていただいたのは去年の十一月の半ば頃でした。今回の参加は二回目ですが去年行った時から二ヶ月が経っていたのですが僕は正直言つてあんまり復興されていないのだなと感じたと共にやっぱり復興するにはかなりの時間が必要なのだなと感じました。

今回は、海辺の近くにあるコンクリート片やレンガなどを拾うという作業をさせてもらいました。作業する前は、本当にこんなたくさんあるコンクリート片やレンガが綺麗になるのかなと思つていました。他府県のボランティア団体の人も来ていて一緒に協力しながら作業を進めていくと作業時間は四、五時間と短かったですが見違えるように綺麗になっていて正直驚きました。協力しながら作業をしていくという事がこんなにも素晴らしい事なんだなと改めて感じました。これはこれから社会人になる僕にもすごく勉強になりました。作業をしていてコンクリート片やレンガを拾う作業だったのですが、そこは津波が来る前は家が建つていた場所だったので色々な物が落ちていました。衣服であったり、食器や生活雑貨などそういった物を見るととても胸が痛くなり悲しい気持ちになりました。そこで改めて津波の恐ろしさを感じました。

今回、「被災地に学ぶ会」に参加させていただいてまた大きく成長できたと思つています。一緒にバスで行つた先生方のバスでの話などを聞いているととても勉強になってしまったこの先生はこんな思いで被災地に来ているのだという気持ちを感づいて尊敬する部分がたくさんありました。僕はまだ二回しか被災地には足を運んでいませんが僕も被災地の復興には微力ではありますが協力したいと思つているのでまた機会があれば足を運んで行きたいと思つています。本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

★★★大阪府10代 男性★★★

今回、初めてボランティアに参加させていただいて石巻市の風景をみて何も言葉が出ませんでした。震災が起きて十ヶ月以上経っているのにまだ復興が進んでおらず、震災が起きたばかりにテレビで見た風景がほとんど変わらずに残っているような感じでした。

門脇小学校や大川小学校にも行かしていただくことができ、特に大川小学校のことは被災地から帰つてきてからニュースにもなっていました。海岸から四キロも離れていても何人もの命がなくなつてしまうのだと感じ、自然の力というものには本当に怖いものだと思つています。

今回は瓦礫撤去をさせていただきました。作業中にはゲームや電話やおもちゃなどのいろいろな物が出てきて一年前にはこの場所で何事もなく幸せに暮らしていた人がいたのだなと思うと自分も一分一秒をもっと大切に生きて行かないといけないなと思いました。44人の人数で瓦礫撤去をしました綺麗に出来たのはたった家三軒分の土地しかできませんでした。正直言って、時間もボランティアの人数ももっと必要だと感じました。これから先まだまだボランティアに行く機会が積極的に参加していこうと思います。そして、もつとたくさんの方がボランティアに行ってもらえるように今回感じたことなどをいろんな人に話していきたいと思えます。

★★★大阪府20代 男性★★★

一月二十日から二十二日まで石巻のボランティアにいかしてもらいました。僕はこの活動に参加させていただくのは二回目でした。一回目参加させて頂いた時の作業と今回は、全然違う作業でした。

今回の作業は誰でもできるような作業でした。その作業を大人、子ども関係なく全員が必死にやっています。まずは、その姿に心を打たれました。誰でもできるような作業でしたが一日動いて

いるといつもより、なにか疲れた感じがしました。そう疲れを感じているときに気づいたことがありました。地元の方や被災者の方たちは、やりたいうこともできず毎日この作業をしているという事です。その時に気が遠くなりました。そういう自分が情けなかつたです。

一回目に参加させて頂いたときは自分で納得いく作業ができず大人の方たちの動きに、見とれてしまっていました。しかし、今回は自分で一杯作業ができたので少しは高校の頃の恩返しができたと思います。

やはり行きのバスでも、帰りのバスでも一回目と同じで先生方の話には感心を持てますし、自分の為にもなります。おそらくこういうボランティアに参加している方たちの中には中途半端な人は絶対にはいないと思います。自分はそういう中途半端な部分を直したいと日々思っています。このボランティアに参加させて頂くことによってそういう部分が直っていく気がします。人の為にもなるし、自分の為にもなるこの活動に参加させて頂けることを本当に感謝しています。

毎回、毎回思うのですが、自分達は普通に野球をやっているように、こういう風に普通に生きられない人が日本にもいるということをお忘れなさいでその人達の分まで必死に生きるぐらいの気持ちで生きていきたいです。本当にいい経験をさ

してもらってありがとうございます。また機会があればいかしていただきたいと思えます。ありがとうございます！！

★★★大阪府10代 男性★★★

今回初めて石巻に行かしてもらって、被災地の現状はテレビのニュースや新聞などでしか知ることはできなかったのですが、今回実際に自分の目で見てみて思ったことは、まだまだ壊れた家などかそのままの状態に残されているのを見てとても衝撃を受けました。

作業は牡鹿半島でした。民家があったところの瓦礫撤去をしました。実際に作業をしてみると割れた食器の欠片や生活用品がでてきたりし、約十ヶ月前まで普通に人が暮らしていたとは思えませんでした。

そして帰りに大川小学校に行つたときに、バスから降りると雰囲気全然違って、あの場でたくさんの子が亡くなっている場所に自分も立て、ご冥福をお祈りできたのはよかつたと思えます。

今回参加させてもらって一番思ったことは感謝ということ。自分はいくさんの人に支えられていて、決して一人ではないということを感じました。その中で僕は幸せということも感じました。今回自分達の他に先生方も参加されて

いて、その中には熊本や鹿児島から来られている人がいたのはびっくりしました。僕もそのような大人になりたいなと思いました。またこのような機会があれば参加したいです。

★大阪府20代 男性★

20日～二十二日に被災地にボランティア活動に参加してもらいました。僕は今回二回目の参加でした。一回目の時は正直にいうと被災地の現状もあまりわからないし軽い気持ちで行くと決めた部分がありました。だから一回いってみて悲惨な状況もわかったしもう一度新たな気持ちでいきたいと思ってまた参加してもらいました。この前行ってから3ヶ月たっていたけど正直まだまだ復興していないのが今の被災地の状況でした。作業時間は短かったのですが三班にわかれて作業してみんなで協力しながら少しは復興に貢献できたかなと思います。

バスの中でいろんな先生のいろんな話を聞いて自分自身も成長できたと思います。今回でこの活動は八回目だったけど正直まだまだ復興していないのが現状です。だからまた九回目、十回目とあると思いますが自分も含め積極的に参加してもらいたいと思います。

★大阪府20代 男性★

今回僕は始めてボランティアに参加させて頂いてとても勉強になりました。一番印象に残っているのは回りは何もないけど家が一軒だけ残っていたのが一番印象にのこりました。同じ日本とは思えません。工場とかも建物は残っているけど、中はぐちゃぐちゃでガラスとか度合いがなくてすごかったです。大阪では建物とかが普通にあって平和やけど被災地に行ってみると想像よりも酷かったし光景を見た瞬間はショックでした。実際行ってみないとわからない事がいっぱいあるしテレビで見るとは全然伝わり方が違いました。

今、自分が野球をできている事が当たり前ではないし、被災地の人は僕たちより何倍もしんどい思いや悔しい思いをしているし、僕たちは絶対、物とか食事を粗末にしてはいけないと思います。僕が今野球をできているのが当たり前ではないし、被災地ではやりたくてもできない人もいます。そういう人達の分まで一生懸命頑張りたいです。ありがとうございます。

★大阪府20代 男性★

今回で被災地のボランティアは二回目になります。前回行かしてもらった時と今回行かしても

らって思ったのは、まだまだ復興していないのかなと思ったのが率直な感想です。一人でも多くの人が復興支援してくれればいいなと思います。

石巻のボランティアに行かしてもらって毎回思うことは団結する力の強さです。今回の作業は瓦礫の掃除で、四時間ほどでは、無理じゃないかなと思っていました。上から見た時にとてもしゃべりになっていて、みんなで団結すればすごい力になることを再確認しました。石巻ボランティアに参加する先生方の行動力にはいつも尊敬します。野球も団結力、チーム力が必要になるスポーツです。石巻ボランティアで学んだことはチームにも広めていかないとはいけません。今回22人も野球部員を参加してもらえたことは本当によかったと思います。これからの機会があれば参加してもらいたいと思いました。

★大阪府20代 男性★

被災地に学ぶ会に参加させていただき、ありがとうございます。今回で二回目の参加となりましたが、前回とはまた違った作業で、コンクリート片やレンガ、ガラス等の撤去で細かい作業でした。前回は十月に参加させてもらいましたが、それから約三ヶ月が経ち、被災地も自分が思っていた以上に復興していました。ただ被災してから十

ヶ月が過ぎてもやはり完全に元通りにはならず、復興するまであと何十年かかるのかと思わされました。

作業をさせてもらい、約40人でガレキ撤去などをしましたが、たった三〜四時間という短い時間ながらも、あれだけたくさんのガレキを撤去でき、人の団結力の凄さを改めて感じました。ただあれだけの量のガレキは三軒の家の広さからしかでていないので、すべてを復興させるには本当にかかりの時間や、たくさんの人の助けがいるものだと思います。

前回もそうだったのですが、バスの中で自己紹介や感想を四〜五時間かけてしましたが、自分もみなさんの自己紹介や感想がとても勉強になりました。それぞれの気持ちや意気込みなどを聞かせてもらい、その人の言いたいことが伝わってきて、このような機会が無いと聞けない話です。自分達学生の思いも、下手くそながらも、一緒に参加している皆さんに伝えることができたので、この被災地に学ぶ会で、被災地だけでなく、乗せてもらっているバスの中でも学ばせていただくことができました。

また今回は事故や天候の影響で長い時間安全に運転して下さったバスの運転手さん達に感謝したいと思います。次も機会があれば参加させてもらいます。本当にありがとうございます。

★大阪府20代 男性★  
私の学び

◆被災地に行ったではなく、行かせていただいた。なぜなら、日本を美しくする会のご厚意で被災地へ行くことや大谷先生をはじめ、動いてくださる方々がいてくださるから参加ができたからです。今後ともこのことを肝に銘じながら自分が被災地でできることを懸命にさせていただきます。自分の役割だと感じました。

◆「ていねいの意味」について身をもって感じる事ができました。今回の活動の中で瓦礫(思い出) (以下は瓦礫)を丁寧に分けることを心がけました。しかし、意識しているときはできず、少し時間がたつとすぐにていねいに行かない自分がいました。これは、まぎれもなく日頃から丁寧に生きることができていないからだと感じました。被災地に来させていただいて、自分の至らなさを感じる事ができました。少しでも「ていねいに生きる」ことを意識して生きたいです。

◆今回で二度目の被災地でしたが、時間を「共有」していく中で、石巻市が自分の中で特別な場所になってきています。続けることに意味があると感じます。今後も参加できる範囲で、足を運ばせていただきたいと思います。

◆お風呂で出会った現地の子どもヒロキ君との時間は大川小学校の子どもたちの無念さの意味を私に教えてくれました。私は、大川小学校でお参りさせていただいて、子どもたちや教職員の無念の死を自分の中でどのようにとらえたらよいか分かりませんでした。しかし、お風呂であった5歳の少年ヒロキとの会話から、「この子が生きていてよかった」

「そうだ、自分の仕事は子どもたちの未来を考え、創る仕事なんだ」と感じる事ができました。

◆前回もそうでしたが、「あたりまえのことが、あたりまえではない」平和ぼけしてしまっている自分の日常が実は「有り難い」ということに再度気づかされました。子どもたちに多くを求めてしまう自分を見つめ直すきっかけになりました。

「子どもたちには学校にきてくれるだけでいい」そのような感情も持てるようになりました。被災地からどおり、子どもたちと接する中で今までとは違う感覚で接することができています。子どもたちに対する気持ちは今までとは違います。この感覚を大切にしたいです。